町村週報

（町村の購読料は会費の中に含まれております）

2868号

毎週月曜日発行

発行所　全国町村会　〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486　FAX03-3580-5955

発行人　石田直裕：定価1部40円・年間1,500円（税、送料含む）　振替口座00110-8-47697　http://www.zck.or.jp

もくじ

活動　都道府県町村会正副会長交流会を開催―自治功労者69名を表彰―……(2)

情報　町イチ！村イチ！2014開催報告　342の町村が東京国際フォーラムに集結！　～メイン会場への来場者は52,000人に～……(8)

情報　町村Navi……(12)

随想　夕陽のまちづくり……静岡県西伊豆町長　藤井　武彦……(14)

神磯の鳥居（茨城県大洗町）

◉写真キャプション◉

平安時代に編まれた『日本文徳天皇実録』によると、856年、大己貴命と少彦名命が共にこの磯へ降り立ったという。大洗磯前神社は二神を祭神として祀り、元旦には神職が神磯に降り、鳥居の先、太平洋を照らす初日の出を参拝する。

コラム

「キョウイク」と「キョウヨウ」

東京大学名誉教授　大森（おおもり）　彌（わたる）

六五歳以上の人を高齢者と呼んでいるが、高齢者には個人差があり一律にとらえることはできない。しかし、その数と割合が増えれば、生死観を含め高齢者の生き方が問題になるのは当然である。

書店をのぞくと高齢者の生き方に関するハウツー本が溢れている。ハウツー本が実際に役立つことはあまりないが、それでも、そうした本が売れるのは高齢者が不安をもっているからである。老後の不安は「健康、金、孤独」といわれるが、一番難しいのは「ひとり」を生き抜くことである。「ひとり」という自由な生き方を選ぶ人は、最後は誰かの世話になってと考えるのはおこがましいはずであるから、野垂れ死にする覚悟が必要である。しかし、現実にはそんなに強い自立した高齢者が多いわけではない。

切ないのは、本人が他の人とのお付き合いを煩わしいとか面倒だとかと考えて閉じこもり、地域社会から身を引き、だれからも声もかけられず、人知れず死んでしまう場合である。この孤立死を自業自得だと放置するわけにはいかない。地域で暮らす高齢者には、無用な人、無能な人は一人もいない。だれもが、それぞれにかけがえのない存在として、地域の中で役割を担い、活動の場があってこそ、安らぎと充実感をもって日々を送れるというものである。

高齢者が元気に毎日を送るための秘訣は「キョウイク（教育？）」と「キョウヨウ（教養？）」であるという。「キョウイク」とは「今日も行くところがある」こと、「キョウヨウ」とは「今日も用事がある」ことだそうである。「今日も行くところがある」というのは「居場所がある」ことで、「今日も用事がある」とは「出番がある」ことだと言い換えることができる。今日も予定があり身支度を整えて出かけていく。出かけて行った先には気心の知れた人びとがいて、そうした人びとと協力して誰かのために役立つ活動をする。「キョウイク」と「キョウヨウ」は高齢者も主役となって地域を担うときの合言葉であるといえよう。

全国町村会

都道府県町村会正副会長交流会を開催

― 自治功労者69名を表彰 ―

全国町村会は1月23日午後3時から、東京・永田町の全国町村会館において、都道府県町村会正副会長交流会を開催し、自治功労者の表彰を行った。

本交流会には、各都道府県の正副会長・事務局長など約160名が出席。はじめに藤原忠彦会長（長野県川上村長）の挨拶があり、続いて、来賓として出席した関口 昌一 総務副大臣、蓬 清二 全国町村議会議長会会長から祝辞が述べられた。

続いて自治功労者の表彰に移り、69名（町村長（3期）52名、退職町村長17名）の表彰が行われ、被表彰者代表である石川県中能登町長・杉本栄蔵氏に藤原会長から表彰状と記念品が贈呈された。

なお、表彰終了後、京都大学大学院工学研究科教授・藤井 聡氏から「日本再生に向けての列島強靭化論」というテーマで講演が行われた。

活　動

会長あいさつ

町村自治の振興発展に向けた活動を強力に展開

全国町村会長　藤原（ふじはら）　忠彦（ただひこ）

本日ここに、都道府県町村会正副会長交流会を開催いたしましたところ、関口総務副大臣、蓬全国町村議会議長会会長におかれましては、公務極めてご多端の折、ご臨席を賜り厚く御礼申し上げます。また、各都道府県町村会正副会長の皆様方におかれましては、ご多用の中を遠路ご出席いただき、誠にありがとうございます。

去る1月11日及び12日の両日、東京国際フォーラムにおいて開催いたしました、町村から日本を元気にするイベント「町イチ！村イチ！2014」は、入場者数が、5万2、000人に達しました。これは、平成23年に開催した第一回の入場者数、3万5、000人を大きく上回るものであり、改めて町村の持つ底力を感じさせる二日間でありました。皆様方のご尽力とご協力により、大盛況のうちに終了することができましたことに対し、心から感謝と御礼を申し上げます。

さて、この交流会は、都道府県町村会の会長、副会長が一堂に会する一年に一度の機会であります。意見交換等を通じて、相互の連携を強化し、町村自治の振興発展に向けた活動の充実につなげていただきたいと願っております。

また、本日の交流会におきましては、自治功労者の表彰を行うこととしたいたしております。表彰を受けられる皆様におかれましては、永年に亘り重要な職務を全うされ、町村自治の振興発展に大きく貢献された功績が評価されたものであり、心からお祝いを申し上げる次第であります。

ご案内のとおり、安倍総理の下で行われている経済対策「アベノミクス」により、円高・デフレからの脱却が図られつつあり、我が国の経済に明るい兆しが見えてきておりますが、その効果は一部の大企業・大都市にとどまっており、全国津々浦々まで地域経済が活力を取り戻すには道半ばであります。

安倍総理が昨年12月の全国町村長大会で述べられた「地域の元気なくして日本の元気なし」を確実なものとするためには、町村が地域の実情に応じて主体的な地域づくりに取り組めるよう、真の分権型社会を実現していく必要があります。そのためには、財政基盤の強化が必要不可欠であり、安定的な自主財源の確保が図られなければなりません。昨年末に決定いたしました平成26年度地方財政計画の作成にあたりましては、地方交付税、税制改正ともに厳しい状況の中、新藤総務大臣をはじめ、本日ご臨席の関口総務副大臣にも大変ご尽力いただき、我々の納得できるものとなりましたが、三位一体改革で大幅に削減された地方交付税の復元・増額は絶対に必要であり、今後も訴え続けていかなければなりません。

また、道州制に関しましては、我々は昨年の全国町村長大会において、三度目となる反対の決議を行いました。この特別決議では、道州制について漠然としたイメージや期待感のみが先行し、国民の感覚から遊離していることや、道州制の導入により、市町村合併がさらに強制されれば、農山漁村の住民自治は衰退の一途を辿り、ひいては国の崩壊につながっていくことなどの問題点を改めて指摘したところであります。全国町村会といたしましては、断固として道州制導入に反対してまいります。

日本の原風景であり、食料の供給や水資源の涵養、国土の保全など国民の生存を支える重要な役割を担うのみならず、私たち日本人の「心のふるさと」として、温もりや癒しを与えてくれる国民共有のかけがえのない財産である農山漁村を守っていくため、都道府県町村会との連携を密に保ちながら、町村の振興発展に向けた活動を引き続き強力に展開して参る所存でありますので、皆様方のなお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

来賓あいさつ

町村長と共に日本再生に向けて全力で取り組む

総務副大臣　関口（せきぐち）　昌一（まさかず）

本来であれば新藤総務大臣が出席して挨拶を行うところでありますが、1月24日から国会が開会ということもあり出席しかねますので、私の方から、都道府県町村会正副会長交流会の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

町村長の皆様におかれましては、日頃から地方自治の発展のため御尽力いただき、心から敬意を表するとともに、厚く御礼を申し上げます。また、本日表彰される自治功労者の皆様のこれまでの貢献に対して御礼申し上げます。

「地域の活性化なくして日本の再生はない」これは安倍総理大臣はじめ、新藤総務大臣が常々訴えていることであります。全国津々浦々の皆さんに景気の回復と成長を実感していただけること、これが一番大事であり、まだまだそのような状況に達していないということでありまして、経済の再生に内閣挙げて取り組んでまいりますことをお誓いを申し上げる次第でございます。総務省といたしましても、地域発の成長戦略である「地域の元気創造プラン」を強力に推進してまいります。

クラウド化の推進については、今後、番号制度導入と併せた取組の加速が必要です。総務省では、昨年12月に「番号クラウド推進プロジェクトチーム」を設置し、番号制度の導入に併せたクラウド化が円滑かつ速やかに図られるよう、各団体の取組を全面的に支援してまいります。皆様におかれましては、この機会に是非、共同して情報システムのクラウド化をさらに進めていただくようお願いいたします。

平成26年度の地方財政対策については、地方が自由に使える一般財源の総額をしっかりと確保するとともに、「地域の元気創造事業費」の創設や赤字地方債である臨時財政対策債の大幅な抑制により、地域経済の活性化と地方財政の健全化を同時に進める内容としたところであります。

平成26年度の税制改正については、法人住民税法人税割の一部を国税化し、地方交付税の原資とするほか、車体課税の見直し等を実施いたします。今後とも、税源の偏在性が小さく税収が安定的な地方税体系の構築をさらに一層進めてまいります。

地方分権改革については、今通常国会に第4次一括法案を提出することで一区切りとなりますが、新たな局面を迎える地方分権改革を、地方の発意を活かした「提案募集方式」の導入、それを受け止める政府の恒常的な推進体制の整備、さらに地方の多様性を重んじた「手挙げ方式」の導入、などにより、引き続き力強く推進してまいります。

大規模災害の発生に備え、消防防災体制の充実・強化が必要であり、緊急消防援助隊・消防防災通信基盤の拡充強化を実施してまいります。

消防団員については、地方公務員の入団促進について、大臣から皆様に書簡を発出したところでありますが、昨年成立いたしました「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」に基づき、消防団員の確保、とりわけ、町村職員の入団促進をお願いいたします。さらに、報酬・手当が交付税単価を大幅に下回っている団体が多いことから、額の引き上げをお願いいたします。また、装備について、地方財政措置を倍増いたしましたので、各町村においても、予算措置をお願いいたします。

今年度の地方公務員給与の減額については、皆様に大変ご苦労いただいており、改めて感謝申し上げます。来年度の公務員給与については、減額要請は行わないということになりました。しかし、国においては給与体系の抜本改革などの行財政改革を推進することとしており、地方公共団体におかれても、行財政改革に積極的に取り組んでいただきますようよろしくお願いいたします。

総務省は、地方のパートナーであり、町村長の皆様とは十分な意思疎通を図りながら、皆様と共に、地域を元気にし、日本再生に向けて全力で取り組む所存です。全国町村長大会でも申し上げましたが、私は埼玉県皆野町という人口わずか1万強の町の出身であり、皆様方が私の大きなバックボーンでありますので、しっかりと皆様の代弁者として今後も取り組んでまいりますことをお誓い申し上げる次第であります。それぞれの地域の大変さは肌で分かっている一人でありますので、町村長の皆様方と一緒に手を携えて頑張ってまいりますことをお約束申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

活　動

来賓あいさつ

連携を一層密にし、町村の明るい展望を切り開く

全国町村議会議長会　会長　蓬（よもぎ）　清（せいじ）二

只今、ご紹介いただきました全国町村議会議長会会長の香川県直島町議会議長の蓬でございます。

本日、ここに、都道府県町村会正副会長交流会が開催されるに当たり、全国の町村議会議長を代表しまして、ご祝辞を申し上げます。

はじめに、ご出席の各都道府県町村会長並びに副会長の皆様には、平素、町村行政の中枢にあって住民福祉の増進と地域の振興発展のため、日夜、献身的なご努力と情熱を注いでおられることに対しまして、衷心より敬意と感謝を表する次第であります。

同時に、日頃から私ども町村議会議長会に対し、格別のご理解とご支援を賜っておりますこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、本日、晴れの自治功労者表彰の栄に浴されます皆様方には、心からお祝い申し上げますとともに、今後一層のご活躍をご祈念いたします。

さて、安倍内閣の誕生から早1年余りが経過し、安倍政権の経済政策により企業に景況感が広がり、経済指標は堅調に推移してまいりましたが、このアベノミクス効果は、大企業や投資家、またこれらが多く所在する都市部などに限定されており、地域経済や町村にまで及んでいるとは言えません。

この恩恵を地方にまで導くためには、国と地方が協力して地域経済の活性化方策を講じる必要があり、そのためには、基盤となる地方税財源の確保が必要不可欠であります。

昨年末に決着をみた平成26年度の地方財政対策では、地方交付税は減少となりましたが、地方一般財源の総額は、平成25年度を上回る水準が確保されました。

また、地方が強く求めてきた「地域経済基盤強化・雇用等対策に係る歳出特別枠」は縮小されたものの、地域の元気創造事業を創設し、実質的には従来の特別枠の水準を確保するものとなっております。

このように、総務大臣をはじめ関係各位のご苦労と工夫の甲斐あって、平成26年度の政府予算案は一定の評価ができるものとなりましたが、来年度以降も地方財政の安定を図るためには、地方交付税の復元・増額が必要不可欠でありますので、今後も地方六団体が一致団結して、一般財源の充実強化に取り組んでまいりたいと考えております。

さて、藤原会長の挨拶にもございましたように、我々町村にとっての最大の懸念は道州制の問題であります。

全国町村議会議長会では、平成20年の全国大会以来、あらゆる機会を通じて「道州制導入断固反対」の立場を貫いてまいりました。

基礎自治体の規模を拡大し、住民と行政の距離を遠くする道州制は、地方分権と似て非なるものであります。

今、行うべき改革は、多様な自治体の存在を認め、地域の自主性・自立性を高めることを主眼とした真の地方分権改革であります。

この問題につきましては、全国町村会も道州制の導入には断固反対の立場を鮮明にされておりますので、全国町村会と連絡を密にし、これに対応してまいりたいと考えております。

次に、東日本大震災からの復興について申し述べます。

震災からの復興は、言うまでもなく国・地方を通じて取り組むべき最重要課題であります。

震災以降、全国各地で避難生活を余儀なくされている被災者の皆様、仮庁舎での執務を続けている福島県下の7町村の役場が、一抹の不安もなく故郷の地に戻り、地域が再生するその日まで、我々、町村議会議長会は復興対策に惜しみなく協力する所存であります。

また、この場をお借りして、復興に向けて陣頭指揮を執られている被災町村長の各位のご労苦に対し、心から敬意を表するとともに、困難な道のりに果敢に立ち向かう姿勢にエールを送りたいと存じます。

さて、全国町村会におかれましては、町村の実態を踏まえ、藤原会長を先頭に果敢に行動されており、今後も大きな期待を寄せております。

我々町村議会議長会といたしましても、全国の町村が、将来にわたって明るい展望を切り開いていくことができますよう、全国町村会との連携を一層密にし、町村を元気にさせ、日本を再生させるため、共に頑張ってまいりたいと考えております。

最後に、全国町村会の益々のご発展と本日ご出席の皆様方のご健勝・ご活躍を祈念いたしましてお祝いのご挨拶といたします。

自治功労者表彰

自治功労者69名を表彰

町村長（3期）

【北海道】
石狩郡新篠津村長　東出輝一
茅部郡鹿部町長　川村茂
久遠郡せたな町長　高橋貞光
空知郡南幌町長　三好富士夫
礼文郡礼文町長　小野徹
新冠郡新冠町長　小竹國昭
様似郡様似町長　坂下一幸
幌泉郡えりも町長　岩本溥叙
上川郡新得町長　浜田正利
河西郡中礼内村長　田村光義
中川郡豊頃町長　宮口孝
標津郡標津町長　金澤瑛

【青森県】
東津軽郡外ヶ浜町長　森内勇
上北郡七戸町長　小又勉
下北郡大間町長　金澤満春
三戸郡階上町長　浜谷豊美
三戸郡新郷村長　須藤良美

【岩手県】
九戸郡野田村長　小田祐士

【秋田県】
南秋田郡五城目町長　渡邉彦兵衛

【山形県】
最上郡真室川町長　井上薫

【群馬県】
利根郡片品村長　千明金造
邑楽郡明和町長　恩田久

【埼玉県】
比企郡吉見町長　新井保美
北葛飾郡松伏町長　會田重雄

【千葉県】
印旛郡酒々井町長　小坂泰久

【山梨県】
北都留郡丹波山村長　岡部政幸

【富山県】
中新川郡舟橋村長　金森勝雄

【石川県】
鹿島郡中能登町長　杉本栄蔵

【長野県】
上伊那郡南箕輪村長　唐木一直
上伊那郡中川村長　曽我逸郎
下伊那郡平谷村長　小池正充
木曽郡上松町長　田上正男
上高井郡小布施町長　市村良三

【岐阜県】
加茂郡七宗町長　井戸敬二

【静岡県】
駿東郡長泉町長　遠藤日出夫

【愛知県】
西春日井郡豊山町長　鈴木幸育
海部郡蟹江町長　横江淳一
知多郡武豊町長　籾山芳輝

【大阪府】
三島郡島本町長　川口裕

【島根県】
鹿足郡吉賀町長　中谷勝

【山口県】
阿武郡阿武町長　中村秀明

【高知県】
安芸郡田野町長　安岡雅徳

【福岡県】
糟屋郡篠栗町長　三浦正
田川郡大任町長　永原譲二
京都郡苅田町長　吉廣啓子

【熊本県】
菊池郡大津町長　家入勲
球磨郡多良木町長　松本照彦

【宮崎県】
西諸県郡高原町長　日髙光浩

▲自治功労者代表　石川県中能登町長　杉本栄蔵氏

活動

退職町村長

【北海道】
（4期）
利尻郡利尻町　田島順逸

【青森県】
（4期）
東津軽郡蓬田村　古川正隆

【岩手県】
（4期）
下閉伊郡田野畑村　上机莞治

【福島県】
（4期）
双葉郡富岡町　遠藤勝也

（5期）
安達郡大玉村　浅和定次

【茨城県】
（4期）
那珂郡東海村　村上達也

（5期）
稲敷郡河内町　野髙貴雄

【東京都】
（4期）
新島村　出川長芳

【神奈川県】
（4期）
足柄上郡松田町　嶌村俊介

【長野県】
（4期）
上伊那郡辰野町　矢ケ崎克彦
木曽郡木曽町　田中勝己

（5期）
小県郡青木村　宮原毅

【岐阜県】
（4期）
加茂郡白川町　今井良博

【奈良県】
（5期）
磯城郡川西町　上田直朗

【福岡県】
（5期）
築上郡上毛町　鶴田忠良

【佐賀県】
（4期）
杵島郡白石町　片渕弘晃

【熊本県】
（6期）
上益城郡山都町　甲斐利幸

【沖縄県】
大島郡和泊町長　伊地知実利
国頭郡今帰仁村長　與那嶺幸人
中頭郡北中城村長　新垣邦男

【鹿児島県】
児湯郡高鍋町長　小澤浩一

町イチ！村イチ！2014開催報告

342の町村が東京国際フォーラムに集結！
～メイン会場への来場者は52,000人に～

▷会場入口の様子

△1時間待ちとなった待機列

【はじめに】

2014年1月11日（土）、12日（日）、全国の町村が一堂に会し、特産品や観光資源等の「宝」をアピールすることを目的として、イベント「町イチ！村イチ！2014」～町村から日本を元気にする～が、東京国際フォーラム（メイン会場）、有楽町駅前地上広場（サテライト会場）の2会場で開催されました。前回2011年以来、2回目の開催となる今回のイベントでは、特産品の展示・販売、郷土芸能の披露、震災復興に取り組む町村の様子やまちづくり団体等の活動を紹介、このほか、移住・定住をテーマにしたコーナーや、新たに開発された特産品や新商品を紹介するコーナーを新設いたしました。

今回は、全国929町村のうち、342の町村が参加し（2011年は253町村が参加）、2日間で52、000人の来場者がありました。展示・販売コーナーには、310の展示ブースが並び、約2、600種類の特産品が出品、「町イチ！村イチ！食堂」では54町村の郷土料理の販売など、それぞれの出展町村が「イチ押し」を披露しました。また、メイン会場、サテライト会場にご当地キャラクター146体が集結し、さまざまなパフォーマンスや記念撮影を行いました。

◆東京国際フォーラム　地下2階展示ホール

開会式

メイン会場の開会式は、主催者を代表して、藤原忠彦全国町村会長（長野県町村会長・川上村長）から関係者に向けて挨拶がありました。また、有楽町駅前地上広場は、メイン会場の開会式に先だって行われ、藤原会長から開会の挨拶がありました。

情　報

◁藤原会長の挨拶

展示・販売コーナー

展示ホール（5、000㎡）には、北海道、東北、関東、北信越・東海、近畿、中国・四国、九州の七つのエリアに分かれて展示・販売ブースが並びました。前回は、展示ホール1（3、000㎡）しか確保できなかったため、90㎝×90㎝という限られた展示・販売スペースの提供となり、出展町村等から、広い会場と充分な展示・販売スペースを望む声を多数いただいたことから、今回は、展示ホール全体（5、000㎡）を確保し、2m×2mの対面式の展示・販売ブースで展開、310町村分の展示・販売ブースの出展が可能となりました。各展示・販売ブースでは、のぼり旗やPOP等ご当地ならではの装飾に彩られ、それぞれの出展町村が展示方法に工夫を凝らしていました。会場では大盤振る舞いの試飲・試食、地元特産品を懐かしむ方など多くの来場者で賑わいを見せていました。

◁賑わう展示・販売コーナー

▷大盛況の展示ホール

町イチ！村イチ！食堂

各町村のグルメ食材を調理・販売する「町イチ！村イチ！食堂」では、54町村の郷土料理などが振る舞われました。東京初出展となる石川県津幡町「つ～バーガー」、群馬県玉村町「たまロンスティック」、埼玉県川島町の郷土料理「すったて」、冬にはありがたい秋田県三種町「じゅんさい汁」、山形県小国町「きのこ地鶏鍋」など、多くの方々が、普段東京では味わえない逸品を堪能していました。当初、苦戦を強いられた町村も、来場者に大きな声でアピールするなどして、ほとんどの町村が完売していました。来場者からは「美味しかった」という声が多く聞かれました。前回は、飲食スペースが少なかったことから、今回、スペースの拡大を図りましたが、それでも十分とはいえず、食堂で購入されたものを立って飲食されている方が目立ちました。

△完売御礼！

◁食堂の様子

町イチ！村イチ！ステージ

町イチ！村イチ！ステージは、群馬県草津町のご当地キャラクター「ゆもみちゃん」の草津踊りのパフォーマンスからスタートしました。北海道豊浦町の「世界ホタテ釣り選手権大会」は、水槽内の口の開いたホタテに仕掛けを入れ、口を綴じた瞬間に釣り上げるゲームで、悪戦苦闘する参加者の姿に会場の笑いを誘っていました。この他、秋田県八郎潟町「願人踊」、東京都小笠原村「小笠原古謡ライブ」、長野県松川町「にゃんたぶうステージ」、京都府和束町「coming音都1-31ライ

◁ホタテ釣りを楽しむ来場者

ブ、京都府伊根町「ふなやんステージ」、和歌山県日高町「QUIEライブショー」、広島県坂町「坂雅正会・雅楽演奏」、佐賀県有田町の「皿踊り」、鹿児島県伊仙町「赤土新ばれいしょ『春一番』」PRなど、町村の魅力を伝える伝統芸能等の披露がありました。見物者の中には、地元の伝統芸能が披露され、感激している方もいました。

◆東京国際フォーラム　地下1階ロビーギャラリー

町村ライフスタイルコーナー・町イチ!村イチ!プロジェクト2014コーナー

2回目となる今回のイベントでは、町村ライフスタイルコーナー、町イチ!村イチ!プロジェクト2014コーナーを新設しました。ライフスタイルコーナーは、都会の方々に、全国の町村へ移住・定住を促すPRコーナーとして、81町村の取り組みを、雪、海、島、農、林、コミュニティのテーマに分けて、パネル展示をいたしました。また、町村の魅力に惹かれて移住された、6町村の方々のライフスタイルを映像で紹介いたしました。

△町イチ!村イチ!プロジェクト2014コーナー

△町村ライフスタイルコーナー

プロジェクト2014コーナーは、前回2011年の開催以降に発売された新商品、または開発中の特産品にスポットをあて、39町村から、熱い思いで生み出された新たな特産品124アイテムが展示されました。また、ほとんどの品が展示・販売コーナーでも販売され、地下2階の展示ホールへ誘引をはかることができました。

伝統工芸実演・体験コーナー

伝統工芸実演・体験コーナーでは、宮城県蔵王町「遠刈田伝統こけし　ろくろ挽き実演・絵付け体験」、福島県三島町「奥会津編み組細工」、浪江町「大堀相馬焼き」、昭和村「からむし織体験」、神奈川県箱根町「寄木細工実演」、山梨県富士河口湖町「勝山スズ竹伝統工芸品」、福井県越前町「越前焼ろくろ実演・体験」、滋賀県愛荘町「近江上布を使った小物づくり体験」、奈良県安堵町「灯芯引き体験」、和歌山県那智勝浦町「平安衣装体験」、福岡県志免町「博多曲物実演」、長崎県波佐見町「やきもの鋳込実演」、熊本県和水町「木彫りワークショップ」により伝統の技を来場者に披露していただきました。多くの方が珍しそうに立ち止まり、体験した方々からは「伝統工芸のすばらしさを実感できた」との声が聞かれました。

△実演体験の様子

震災復興応援コーナー

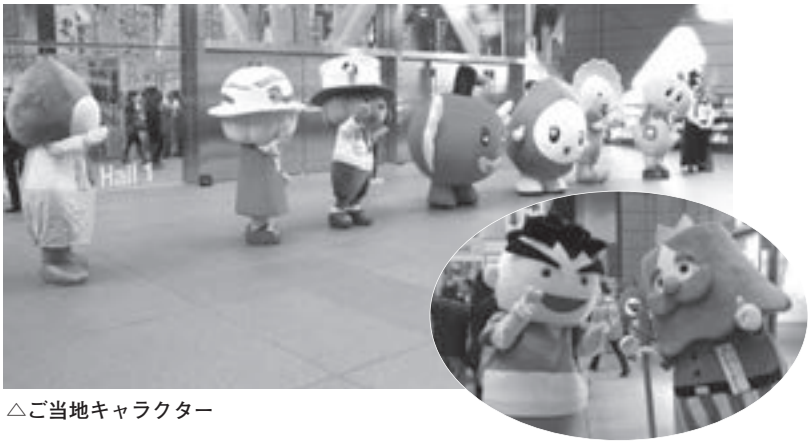
震災復興応援コーナーでは、復興に取り組む町村の様子やまちづくり団体等の活動22事例をパネルにより紹介いたしました。この他、宮城県南三陸町で制作された、ノベルティグッズ（国産杉間伐材を使用）を来場者に無料配布いたしました。

△震災復興応援コーナー展示パネル

ご当地キャラクター

全国各地のご当地キャラクター146体が集結し、イベントを盛りあげま

情　報



△ご当地キャラクター

した。残念ながら全てのご当地キャラクターを勢揃いさせることはできませんでしたが、ご当地キャラクター約40体を1グループとし、会場入り口周辺、展示ホールロビー、ステージ周辺などさまざまな場所に登場していただき、パフォーマンスを繰り広げました。来場者からは「普段なかなか会えないキャラクターも多くいたので貴重だった」などの声が聞かれました。今やご当地キャラクターはPRに欠かせないコンテンツとなりました。

◆サテライト会場（有楽町地上駅前広場）

サテライト会場は伝統芸能の披露、演舞や太鼓中心の舞台となりました。馬に扮した馬役とその手綱取りが力強く太鼓とお囃子に合わせて踊る青森県今別町「大川平荒馬」、獅子が激しく歯を打ち鳴らす福島県浪江町「室原の神楽」のパフォーマンスに、多くの方々が足を止めていました。郷土芸能は、地域とともに歩む芸能として欠かせない文化であると感じました。このほか、青森県南部町「南部七唄、七踊り」、秋田県八峰町「石川駒踊り」、秋田県羽後町「西馬音内盆踊り」、滋賀県日野町「日野祭囃子」、滋賀県豊郷町「江洲音頭　絵日傘踊り・扇踊り」、兵庫県市川町「笠形山の仙人」、和歌山県太地町「鯨踊り」、熊本県多良木町、「東光寺の臼太鼓踊り」、福岡県川崎町「川崎だきやき」の披露がありました。

▷サテライト会場「大川平荒馬」青森県今別町

◆町イチ！村イチ！商談会

全国町村の特産品の新たな販路の開拓を目指し、特産品展示・販売コーナーに出展頂いた310町村の中から33町村に参加頂き、食品流通バイヤー10社とのマッチング商談会を11日、東京国際フォーラムガラス棟4階会議室にて行いました。

初の試みとなる商談会は、1商談20分間、参加各町村平均3商談、各バイヤー当たりでは9商談というタイムテーブルのもと、我が町村の「イチ押し」の特産品を首都圏での確かな販路に乗せたいという参加町村のニーズと、消費者の根強い地方特産品の購買ニーズに応えたいバイヤー各社の熱気が掛け合わさり、本会場に負けない盛況な商談会となりました。参加町村、バイヤー各社とも商談会後の感触は、「初めて東京のバイヤーと直接商談ができて大変良かった」、「こんな逸品が地方にあるとは知らなかった」等極めて良好で、次回開催を強く熱望される大変嬉しい結果となりました。今回は、急遽開催が決定したことにより、限られた町村にしかお声かけが出来ませんでしたが、今後は規模を拡大し、より多くの町村にご案内できればと思います。

▷商談会の様子

おわりに

今回2回目の開催となった「町イチ！村イチ！2014」は、前回を大きく上回る52、000人の方々に来場を頂きました。これもひとえにご出展、ご出演いただいた方々、各都道府県町村会関係者の皆様のご支援、ご協力の賜物であります。この場を借りて感謝を申し上げます。

町村には、まだまだ多くの「宝」が眠っていると思われます。「町イチ！村イチ！」は、町村にとっては、ごく普通のものが、「都会の人にはお宝だった」ということに気づかされ、来場者にとっては、町村のすばらしい魅力を知っていただく、絶好の機会であると考えています。

今後は、皆様のご意見を伺いながら、更にブラッシュアップをはかり、よりよいイベントにしていきたいと思います。

全国町村会　広報部　市川裕之

情　報

東京財団週末学校　2014年度参加者募集

来たれ！ 地域をよりよくしたい人

市区町村職員を対象とした人材育成プログラム「東京財団週末学校」では、現在、2014年度の参加者を募集しています。志ある全国の皆様のご応募をお待ちしています。

【目的】
住民を主体とする地方自治の実現と地域の潜在力を活かした多様性あるまちづくりのため、自らの頭で考え、行動を起こすことができる人材を育成する

【特徴】

徹底的に本質に向き合う
・地域リーダーから講義や議論を通して、自治の本質を学ぶ
・座学のみならず、国内の先進自治体に入り、その体験を通じて地域の多様性や潜在力に気付く
・米国オレゴン州ポートランドでの調査実習から、「公」を担う真の行政の仕事と役割を考える

地域の課題解決につなげる
・政策立案の専門家である東京財団研究員のサポートのもと、体系的に課題と向き合う力を身につける
・それぞれの地域の課題を明確にして、具体的な取り組みを自らが提言し、その解決に向けた行動につなげる
・全国各地で活躍する200名の修了生ネットワークを通じた活発な情報交換
・地域の現場との接点を持ち続けながら、切磋琢磨しあう仲間とともに現場力を高める

参加しやすい・派遣しやすい
・週末を利用した参加しやすく、派遣しやすいプログラム構成
・東京やポートランドへの旅費は東京財団が負担

【スケジュール等】
・期間：2014年5月から10月の約6ヵ月間、全10回の週末プログラム
・構成：東京でのプログラム5回、国内調査4回および国外調査1回を実施予定

【費用】参加費：10万円
東京やポートランドへの交通費、宿泊費は東京財団が負担

【応募資格】
・自らの地域をよりよくしたいという強い想いを持ち、将来、自らの自治体や地域においてリーダーシップを発揮したいと志すもの
・知識やノウハウの習得ではなく、自らの自治体や地域の課題解決に向けて、自ら行動する意思のあるもの
・市区町村職員であり、5年以上の職員歴を有するもの。ただし、2014年4月1日時点で49歳以下のもの
・原則として、所属する自治体の首長の推薦があるもの
・原則として、全プログラムに参加することが可能なもの

【募集人数】20名（書類、面談により選考）

【応募締切】2014年3月7日（金）

東京財団必着

◇詳しくは、ウェブサイトをご覧ください
http://tkfd-shumatsu-gakko.jp
（〝東京財団週末学校〟で検索）

【これまでの講師】
福嶋浩彦（東京財団上席研究員、前消費者庁長官、前我孫子市長）、片山健也（ニセコ町長）、中尾修（東京財団研究員、元栗山町議会事務局長）、吉本哲郎（地元学ネットワーク主宰）、上野健夫（NPO法人鳴子の米プロジェクト理事長）、西芝雅美（ポートランド州立大学行政大学院准教授）等

【お問い合わせ】
東京財団　週末学校（担当：稲垣、石川）
（電　話）03－6229－5503
（Eメール）shumatsu-gakko@tkfd.or.jp

町村専用ページ「町村.com」をご覧になっていますか

http://www.zck.or.jp/choson/

全国町村会では、全国の町村との連携を密にし、町村長と町村職員のみなさんの情報収集の利便性を向上させるため、町村専用ページ「町村.com」を開設しています。

「町村.com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁などの政策情報を随時ご提供しているほか、全国の町村の先進的な取り組み事例をはじめ、各種統計資料など様々なデータも公表しています。

私どもは、「町村.com」が町村関係者にとって真に役立つホームページとなることを目指し、これからも充実をはかっていきたいと考えていますので、ご覧になったご感想・ご意見を、下記のメールアドレスにお寄せください。

kouhou@zck.or.jp

・「町村.com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。
ご覧になる際は、所定のパスワードが必要になります。

・ユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ済み（平成18年9月27日付）ですが、お問い合わせは、全国町村会広報部までメール（kouhou@zck.or.jp）でお願いいたします。

随想

夕陽のまちづくり

静岡県西伊豆町長　藤井武彦

私の若いころ育った西伊豆町田子地区は、鰹漁で栄えた漁師町で賑わっていました。そこで昔から保存食として伝わってきた鰹を1本丸ごと塩漬けにして干した塩鰹が作られてきました。塩鰹を「しょうがつお」と読み、縁起の良い食べ物として藁で飾り、正月には神棚にお供えします。地域の特色を生かしたまちづくりの方策を考え、地元が元気になるように、その塩鰹を使った商品で地域をアピールしている団体もあります。

西伊豆町は、都心から約3時間、静岡県の東部、伊豆半島の西海岸のほぼ中央に位置し、西は駿河湾に面し、東は天城山系が連なる豊かな自然に囲まれた町です。国立公園・名勝に指定された海岸や島々、奇岩を前景に水平線に沈む夕陽は非常に美しく、夕映えの美しい「夕陽のまち」として平成17年には、〝夕陽日本一〟宣言をしました。夕陽をみる会の開催や夕陽のビュースポット整備、夕陽ボランティアによる案内など、夕陽をシンボルとした地域づくりを行っています。

夕陽のまちづくりを進めていく過程で、町内5地区において、地域の方々とそこに住む町職員が一緒になって、まちづくり協議会を立ち上げました。古い民家を利用して地場産品を販売したり、干潟をきれいにして、以前は豊かであったアサリを復活させようと海岸整備を試みたり、遊休田を利用して健康食品のヤーコンを栽培してお茶や切干しなどの商品化に取り組んでいる地域もあります。地区のリーダーとなる人材の掘り起こしと、まちづくりの輪が広まり、地域が活性化することを期待しています。

今、伊豆半島ではジオパークの認定に向けての取り組みが行われています。町内の堂ヶ島地区には、美しい絶景をつくり出している奇岩や断崖の岩肌に、噴火をくり返した海底火山の記憶が刻まれており、伊豆半島最古の地層「枕状溶岩」などのジオサイトもあり、解説のための人材育成や環境整備を進めています。

三島由紀夫の小説の舞台にもなった、県の指定天然記念物の黄金崎は、風化した岩肌が黄褐色に変化し、夕陽を浴びると黄金色に輝き、とても神秘的です。平成25年5月にできた展望デッキから黄金崎を見下ろすと、その姿はまるで、黄金の馬が水を飲んでいるようにも見え、ラッキーな人は遠くに富士山の姿をみることができます。

黄金崎（黄金の馬）

水平線に沈む壮麗な落日と温泉とともに、絶景を楽しみに、是非西伊豆町にお越しください。

今後の町の大きな課題の一つとして、過疎化、少子化、高齢化の進展による地域の活力の低下が挙げられます。町の高齢化率は40％を超えており、また、人口は、就労の場も少ないため、都会への就職人口流出などにより急速に減少しております。これは当町に限った問題ではないと考えますが、町民福祉の実現を持続可能な形で展開するために、子ども医療費の無料化年齢の引上げなどの子育て支援策を考えております。

また、地震防災対策ですが、東日本大震災を契機に町民の皆様方の関心は非常に高まっています。新たに防災専門委員会を発足させ、西伊豆町に合った防災対策、減災対策等について話し合い、最善最適な防災対策は何かを、町民の皆様と一緒になって考え、進めていきたいと考えております。

観光産業の活性化や安心安全なまちづくりで住民の皆様が心豊かに生活できることを願っています。

車両共済（保険）のご案内

（自動車総合保険の車両保険）

大切なマイカーには…

全国町村等職員の **自動車共済** ＋ 上乗せ **車両共済（保険）**

のご加入がオススメです！

この車両共済（保険）は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償（車両保険）」を追加する制度です。
お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済（保険）金をお支払いします。

町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

○無事故による割引で新規から **41％（保険料）割引**
（ご加入を希望するお車が町村生協の自動車共済で過去３年間無事故の場合は、ノンフリート等級９等級からスタートします。）

○集団扱年一括払いによる割引で更に **5％割引**

○保険料分割払（12回）も選択可能です。
（保険料分割払をご利用の場合は上記の集団扱年一括払の５％割引の適用はありません。）

さらに

無料ロードサービスがついてきます。
ご契約のお車が、事故・故障で自力走行できなくなった場合、事前にロードアシスタンス専用デスクにご連絡ください。JAF にお取り次ぎし、レッカーや30分程度の緊急修理などを手配します。
●バッテリー上がりや、キー閉じ込み、ガス欠など

◎１年間事故が無かった場合は、翌年の等級は１等級上がります。
事故によって車両共済（保険）をご利用された場合は、事故件数１件につき３等級下がります。

・掛金（保険料）は、型式、初度登録年月、年齢条件、運転者限定特約の有無、共済（保険）金額、等級などにより異なります。
・このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については取扱代理店（千里）または損保ジャパンの営業店にお問い合せください。
※この車両共済（保険）をご契約いただける方は、全国町村職員生活協同組合の自動車共済に加入されている方に限ります。

お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください。

株式会社　千里
（取扱代理店）

●フリーダイヤル　**0120-731-087**　（受付時間　月～金　午前9時30分～午後5時）
お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください。
●FAX番号　**03-3519-7325**
●ホームページアドレス　**http://www.chisato-ag.co.jp**
〒100－0014　東京都千代田区永田町1－11－32　全国町村会館西館内

●「車両共済（保険）制度」は、全国町村職員生活協同組合と株式会社損害保険ジャパンとが集団扱契約を締結し、実施しているものです。
●集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパンの定める条件を満たす場合のみとなります。
詳細については、取扱代理店（千里）または損保ジャパンにお問い合わせください。

〈車両保険引受保険会社〉㈱損害保険ジャパン営業開発第２部第３課　03-3593-6456

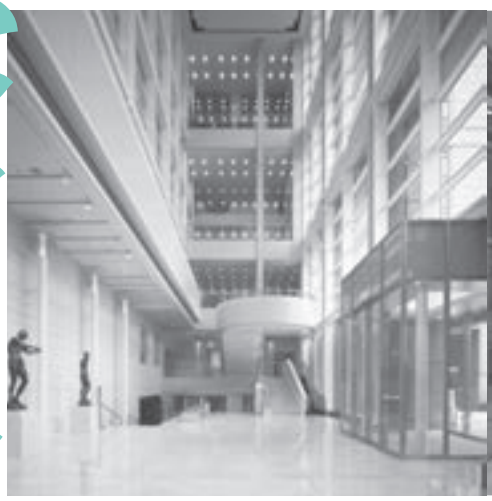
SJ13-09078(2013.11.14作成)

TIME of RELAXING

「ゆとり」と「やすらぎ」の ひととき

静かさと心地よさに配慮し、室内インテリア全体を落ち着いた雰囲気にまとめ、ゆったりとしたやすらぎのひとときをお届けいたします。

http://www.zck.or.jp/kaikan/index.html



土・日・祝日はリーズナブルに

土・日・祝日のご宿泊は、平日料金の 20%OFF

金曜日のご宿泊は、平日料金の 15%OFF

和室もございますのでお問い合わせ下さい。
禁煙ルームをご用意しております。

洋室シングル

シングル 119 室　SINGLE ROOM

平日料金 9,817 円より

金曜日料金
15% OFF 8,344 円より

土・日・祝日料金
20% OFF 7,854 円より

洋室ダブル

ダブル 12 室　DOUBLE ROOM

平日料金 13,282 円
〈2 名利用〉※1 名利用の場合 11,072 円

金曜日料金
15% OFF 11,289 円
※1 名利用の場合 9,326 円

土・日・祝日料金
20% OFF 10,626 円
※1 名利用の場合 8,778 円

洋室ツイン

ツイン 17 室　TWIN ROOM

平日料金 18,480円より
〈2 名利用〉

金曜日料金
15% OFF 15,708 円より

土・日・祝日料金
20% OFF 14,784 円より

会議室・宴会場

2 階には広さと設備が多彩な、大小４つのホール、会議室。高い機能性を持ち、さまざまな演出が可能です。会議・研修、パーティーなどに幅広くご利用いただけます。

カジュアルレストラン「ペルラン」

ランチタイム 11:00 ～ 14:00
ティータイム 14:00 ～ 17:00
ディナータイム 17:00 ～ 22:00
（21:30 ラストオーダー）

和食処「さいかち」

ランチタイム 11:30 ～ 14:30
（14:00 ラストオーダー）
ディナータイム 17:00 ～ 22:00
（21:30 ラストオーダー）

全国町村会館

市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。

お電話でのご予約・お問い合わせは

TEL 03(3581)0471
FAX 03(3581)0220
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1 丁目 11 番 35 号

ご宿泊の予約が、全国町村会館の WEB からお申し込みいただけます。

http://www.zck.or.jp/kaikan/index.html

全国町村会館へのアクセスガイド

■有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町」3 番出口徒歩 1 分
■丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩 5 分
■タクシー東京駅から約 20 分